

スギ、ヒノキ花粉飛散と黄砂飛散

○今井 透（聖路加国際病院）、市瀬孝道（大分県立看護科学大学）、  
岸川禮子、鈴木基雄、村山貢司、西川恵子、  
佐橋紀男、宇佐神篤（NPO花粉情報協会）

【はじめに】

最近中国から飛来する黄砂が国内各地で観測されているが、その生体影響に関しては不明な点が多い。特に春季花粉症の時期に黄砂の影響が懸念されるが、それらの飛散状況やそれぞれの症状の確認は十分とはいえない。今回はまず黄砂観測結果とスギ・ヒノキ花粉飛散観測結果との比較を行った。

【方法と結果】

気象庁の行っている平成16年から18年までの目視での黄砂観測結果では、3月初旬から5月末までの観測が多く、日本海側に多かった。特に平成19年4月2日には全国98箇所の黄砂観測地点の中では75地点で観測された。3月と4月の黄砂観測日にスギ、ヒノキ花粉飛散数が増加する傾向があったが、5月の黄砂飛散日にはスギ、ヒノキ花粉はすでに終了していた。

環境省の行っているライダーでの黄砂観測結果から、2007年4月の時間ごと黄砂飛散の程度を確認できた。黄砂の飛散と、各地でのスギ、ヒノキ花粉観測結果を比較したところ、両者の飛散時期、時間帯に共通のところもあるが、必ずしもその関連性は高いものではなかった。黄砂と花粉の発生源、運搬、落下の状況に与える気象条件の影響が異なるためと推測された。

【まとめ】

黄砂飛散により春季花粉症の症状を修飾する可能性があった。今後さらに花粉と黄砂の飛散状況の比較、症状の比較が必要と考えられた。